

臨床総論

Intro to Medical Science

コース責任者

消化器・肝臓内科病院教授 安田 宏

1. 学習目標

1) 一般目標 (G I O)

スチューデントドクターとして必要な医療面接をはじめとした基本的な診療知識と基本的な臨床技能、および態度を習得する。

2) 行動目標 (S B O s)

- (1) 医療行為の根拠の重要性を認識し、典型例における EBM を実践できる。
- (2) 医療事故がもたらす影響の甚大さを認識し、その予防法と事故後の対処法に関する基本的な知識と態度を身につける。
- (3) 院内感染症の重大さを認識し、その予防と発生後の対処法を習得する。
- (4) 胸部単純X線写真の読影法の基本を理解する。
- (5) 12誘導心電図を迅速かつ的確にとり、基本的読み方を習得する。
- (6) 症例のプレゼンテーションの重要性を認識し、その技能を身につける。
- (7) 医療面接に必要な基本的知識・技能・態度を身につける。
- (8) バイタルサインの重要性を認識し、その技能と判断力を身につける。
- (9) 頭頸部・四肢診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (10) 胸部診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (11) 腹部診察に必要な基本的知識と技能と態度を身につける。
- (12) 神経診察に必要な基本的知識と態度を身につける。
- (13) ガウンテクニックの基本的知識と技能・態度を身につける。
- (14) 静脈採血に関する基本的知識と技能・態度を身につける。
- (15) 心肺蘇生法に関する基本的知識と技能・態度を身につける。
- (16) 多職種連携の重要性を認識し、その知識を身につける。

2. 学習内容

基本的診療知識 (医療を取り巻く環境)、安全管理 (院内感染症対策、医療事故)、EBM に関する対応能力と態度の養成を目指す。臨床実習前に身につけるべき基本的臨床技能 (Essential Minimum) として、基本的臨床検査、プレゼンテーション、医療面接、身体診察法、基本的臨床手技の 5 項目を取り上げる。

3. 成績評価

1) 統括的評価

必要最低限の技能（到達目標）が達成できたかどうかを問う。レポートの提出、各回の OSCE の評価、グループ発表討論会でのグループの点数、講義および実習の出席を総合して評価を行う。

2) 形成的評価

形成的 OSCE、グループ討論、小グループ実習を通じてチュータが個別に行う。

3) 共用試験総括 OSCE

臨床総論コースで学んだ知識、技術、態度は、(社)医療系大学間共用試験実施評価機構が行う共用試験総括 OSCE においても試される。共用試験総括 OSCE の合否は臨床総論コースの合否とは別に評価される。共用試験(総括 OSCE と CBT)の合格は臨床実習開始の必須条件である。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
実習	—	80(%)	多職種連携セミナーも評価に含む。
レポート	—	20(%)	
授業態度	—	—	出席状況によって減点する。

4. 教科書・参考書

- ・日本医学教育学会臨床能力教育ワーキンググループ編：
基本的臨床技能の学び方・教え方 南山堂 2002
- ・福井次矢、浅井篤、大西基喜編：臨床倫理学入門 医学書院 2003
- ・社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構：臨床実習開始前の「共用試験」

5. 準備学習

- 1) 実習毎に該当する実習項目について、事前に『診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習・評価項目』を参照し、学習すること。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
内科学 (消化器・ 肝臓内科)	病院教授	安田 宏	月曜日・火曜日 14時～16時	医学部本館3階 消化器・肝臓内科医局	3380 (内線) hyasuda(mail)

メールアドレスは@marianna-u.ac.jpが省略